

1 目指す学校

平成22年に開校し、14年目を迎える本校は、併設型中高一貫教育校として、6年間を通した一貫した教養教育により、自ら課題を見つけて意欲的に学ぶ力を育成するとともに、国際社会にリーダーとして貢献できる資質の高い人材を育成するための学校である。

【スクールミッション】

「自主・自律・創造」を教育目標に、6年間の系統性とゆとりある中高一貫教育の中で、物事の真理を深く考え、筋道を立てて明らかにする探究活動等を通して、夢の発見と実現に向けたきめ細かな教育の実践により、国際社会で活躍する多様な人間力を育成します。

【スクール・ポリシー】

(1) グラデュエーション・ポリシー

高い倫理観とあくなき探究心を兼ね備えた国際社会のリーダーを育成するために「自ら学び真理を究める力」「自ら律し、他を尊重する力」「自ら拓き、社会に貢献する力」を育成する。

(2) カリキュラム・ポリシー

基礎・基本の徹底をし、個に応じた指導を充実させ、生徒の学力の向上を図り、難関国立大学を含む国公立大学に現役で合格できる学力を身に付けさせる。そのために、探究も含めたすべての教科で、附属中学校・高等学校の6年間を見通した系統的な指導及び課題解決型の授業を推進する。

(3) アドミッション・ポリシー

各教科の学習に真剣に取り組み、入学後も学習及び特別活動においての向上が期待できる生徒、総合的な学習の時間において、物事を多様な角度から探究しようとする意欲を有する生徒の入学を望む。

2 中期的目標と方策

(1) 6年間を見通した系統的・組織的な探究活動の推進

- ① 知的探究部を中心とした6年間を見通した系統的な指導計画（大泉ソーシャルイノベーションプログラム）に基づき、高等学校における知的探究活動「探究と創造（QC）」への確実な接続を目指す。
- ② 各教科における授業・行事等を通して、探究活動を行なわせる場面を設定する。
- ③ 高等学校におけるGlobal Education Network 20を意識した探究活動を推進する。
- ④ OIZUMI AWARDの開催に向けて、すべての教職員の共通理解と協力体制を整える。

(2) 6年間を見通した組織的な進路指導

- ① 進路指導部を中心とした6年間を見通した学校運営により、生徒の進路実現・自己実現に向け、各分掌・学年が組織的に機能する体制を構築する。
- ② 進路キャリア部が中心となり、学年と連携し、定期考査、外部模試などの結果を分析し、その分析に基づく指導を行う。
- ③ 組織的な補習・補習や保護者との面談などを実施する。

(3) 基礎的・基本的内容の確実な定着

- ① 各教科で作成した6年間の指導計画に基づき、生徒の言語環境の充実と基礎的・基本的内容を

確実に定着させる。

- ② すべての教科で体験的な学習や問題解決的な学習、アクティブラーニングを積極的に取り入れ生徒の主体的な学習を促す。

(4) 生活指導

- ① 6年間の一貫した生活指導により、集団生活における協調性や自律心、規範意識を育成し、基本的な生活習慣の確立を図る。

(5) 国際理解教育・国際交流の推進

- ① Global Education Network 20 として、国際理解教育や国際交流を進めるとともに、中学Ⅰ年生による国内語学研修、中学Ⅱ年生による姉妹校との交流、中学Ⅲ年生によるオンライン英会話、TGGの利用などを通して改善・充実を図る。
- ② 海外学校間交流推進校として、留学生や学校訪問を積極的に受け入れることにより、海外の高校等との交流活動を積極的に推進する。
- ③ ニュージーランド姉妹校訪問及び姉妹校生徒の受入れを行い姉妹校交流を推進する。

(6) ICT機器利用の推進

- ① 各教科でICT機器の活用を推進するとともに、Society 5.0に向けた学習方法研究校の成果を活用し、生徒が授業や進路関係においてネットワークと機器の効果的な活用を推進する。
- ② 探究活動や各教科でGIGA 端末を有効に活用する。

- (7) 高等学校募集停止に伴う中学校学級増に対応するため校内組織の検討を継続する。

3 今年度の取組目標と方策

(1) 教育活動の取組目標と方策

① 知的探究活動

- ア 高等学校における知的探究活動「探究と創造（QC）」への確実な接続を目指して、大泉ソーシャルイノベーションプログラムを中心に中学校段階で探究活動の基礎的なプロセス、必要な知識・ノウハウを体系的に習得させる。
- イ 探究活動の中にデータサイエンスや統計処理を取り入れる。
- ウ 個人端末やネットワーク（Teams）を活用する。

② 進路指導

- ア 総合的な学習の時間における探究活動とキャリア教育により、自己についての理解を深めるとともに「10年後の自分」をイメージし、その実現を図るために生徒の発達段階に応じた目標を設定させ、高等学校へとつなげる。
- イ 生徒の発達段階に応じて自己の能力や適性を把握させるとともに、探究活動を通じて大学や研究所と連携を図りながら主体的に進路を選択する能力を育成し、生徒の希望する進路の実現を図る。

③ 学習指導

- ア 英語、数学において少人数指導を実施することにより基礎的・基本的な内容を確実に定着させるとともに、発展的な学習も積極的に取り入れることによりより一層の学力の向上を図る。
- イ ティーチャー・イン・レディネス（TIR）など放課後の学習を充実させることで、生徒の個別の学習課題の解決を図るとともに、家庭における学習習慣の定着を図る。
- ウ 課題発掘セミナーを通して知的好奇心を喚起させ、自発的な学習を促す。
- エ 朝読書や読書月間の推進を通して、豊かな情操を培うとともに落ち着いた学習習慣の確立を

図る。

- オ 生徒一人ひとりの学習状況を把握して、生徒・保護者との三者面談を通して協力体制を構築し、生徒の学力の定着と伸長を図る。
- カ 総合的な学習の時間において自ら課題を設定し、調査・研究・発表及び体験的な学習活動を通して言語活動を充実させ、自ら学ぶ意欲を高めるとともに、論理的な思考力や判断力、プレゼンテーション能力の育成を図る。
- キ 全教科でアクティブラーニング・探究学習を推進する。
- ク 全教科において、教師が「問い」を発することを意識し、探究活動を推進する。

④ 生活指導

- ア 月1回の朝礼や道徳の授業を通して、規範意識や生活規律を向上させる。
- イ 生徒相互や生徒と教員間の「挨拶」を励行するとともに、学校生活のすべてにおいて「時間を守る」態度を身に付けさせ、社会生活の基礎と互いに尊重する心を養う。
- ウ スクールカウンセラー、養護教諭、担任の連携を強化し、いじめの早期発見を図るとともに、事案発生時は学校いじめ対策委員会を中心にいじめ防止と対策について検討する。

⑤ 特別活動・部活動

- ア 学校行事や委員会活動、部活動など、高等学校との連携を通して、豊かな人間性とリーダーとして活躍できる資質を育成する。
- イ 生徒会活動を通して、本校の一員としての自覚と責任感を深めさせる。
- ウ 3年間毎年実施する宿泊を伴う行事を通して、望ましい人間関係を育てるとともに、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成を図る。

⑥ 国際理解教育・国際交流の推進

- ア JET・ALTとの交流や3学年における「国際理解」、希望者による海外語学研修、Ⅱ学年における姉妹校生徒の短期留学受け入れ等の取組を通して、国際社会への興味・関心を高める。
- イ 国際交流コンシェルジュと連携を取りながら留学生や学校訪問の受け入れを行なう。
- ウ Ⅲ学年における希望者によるニュージーランド姉妹校訪問の推進を図る。

⑦ 健康づくり

- ア 校内美化を推進し、コンディションレポート等を活用することで健康的で安全な学習環境づくりに努める。
- イ 防災ノートや安全教育プログラム等を活用して、危険を予測し、回避する能力や他者や地域の安全に貢献できる資質・能力を育成する。
- ウ 養護教諭やスクールカウンセラーとの連携を図り、全校的な教育相談体制の充実を図り、心の病の早期発見を図る。

⑧ 食育の推進

- ア 保健体育や技術・家庭科等の授業や給食指導を通して食育の推進を図る。

⑨ 学校2020レガシーの推進・体力向上

- ア 「日本の食文化」に対する理解を深める取組を推進する。
- イ 体育授業、部活動、体育的行事を通して、日常的な運動習慣を身につけさせ、体力の向上を図る。

⑩ 特別な支援が必要な生徒への適切な支援体制

- ア 障害者差別解消法に基づく合理的配慮を適切に実施する。
- イ 必要に応じて「特別支援教室による指導」制度を活用する。

⑪ 自殺対策に資する教育の推進

- ア 東京都教育委員会作成資料「SOS の出し方に関する教育を推進していくための指導資料」を参考に生徒理解に努め、未然防止に努める。

⑫ 校内環境の整備

- ア 施設の安全管理を徹底する。
- イ 自習室など学習環境の整備を推進する。

⑬ ライフ・ワーク・バランスの推進

- ア 「学校における働き方改革推進プラン」に基づき学校の業務改善を推進する。
- イ テレワークの活用と計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、教職員一人ひとりのライフ・ワーク・バランスの実現を図る。
- ウ 水曜日に帰りのHR・清掃を実施しない日を定めることにより会議等の時間設定を図る。
- エ 日々挨拶とコミュニケーションを積極的にとることにより、明るい職場風土づくりを推進する。
- オ 管理職は、毎月、長時間労働者への超過時間の通知と産業医面接の実施により、教職員の組織管理や時間管理、健康安全管理を行う。

⑭ 経営企画室と一体となった学校経営の推進

- ア 経営企画室と教員組織が円滑に連携を図り、施設管理は予算執行管理を適正に行う。
- イ 施設・設備の点検と維持管理を強化し、安全管理と事故防止に努める。
- ウ 経営企画室は都民サービスの視点に立った窓口業務、広報活動を推進する。

⑮ その他

- ア 年間を通じた服務事故防止研修会を実施、個人情報管理、サービス管理、危機管理の徹底を図る。

(2) 重点目標と方策

① 6年間を見通した系統的・組織的な探究活動の推進

- ア 本校の柱である探究活動について全教員が協力して推進を図る。
- イ 高等学校における知的探究活動「探究と創造（QC）」への確実な接続を目指した、中学校段階での新たな系統的なプログラム（大泉イノベーションプログラム）を推進する。
- ウ 自ら課題を設定するための原動力となる好奇心を高めるために、様々な活動を行なうことで、探究活動の基礎的なプロセス、必要な知ノウハウを体系的に習得させる。新たに、データサイエンスや統計処理を学ぶことで探究活動の更なる発展を図る。
- エ 各教科における授業・行事等を通して、主体的な学びを行なわせる場面を設定する。

② 6年間を見通した系統的・組織的な進路指導

- ア キャリア教育から進路指導へと6年間を見通した組織的な進学指導の実施を適切かつ確実に遂行することで第一希望の進路実現を支援する。

③ 学力のさらなる向上

- ア アクティブラーニング、探究型学習などの指導力向上に向けて教科主任を中心として検討し、6年間を見通した教科指導計画と内容について教科の全教員の共通理解を図る。校外の研修や指導教諭の授業を参観することで「チーム大泉」としての組織的な教科指導力を向上し、生徒の学力向上を推進する。
- イ ICT機器を活用した授業、オンラインでの授業対応を推進することで個人タブレットの活用を図る。

③ 豊かな心と思いやりの心の育成

ア 道徳や学校行事、部活動など教育活動全体を通じて、豊かな心と思いやりの心をはぐくみ、人間性を高める。

4 数値目標

(1) 学習指導

生徒の授業満足度	90%
講習満足度	90%
定例教科会	12回
教員相互授業見学	3回/年

(2) 生活指導

部活動地域大会以上出場	4部
部活動入部率	100%
行事満足度	75%
校内美化	80%

(3) キャリア教育

校内模試	3回/年
生徒面談	2回/年
三者面談	1回/年
模試分析会	2回/各学年

(4) 入学選抜

入選倍率	6.50倍以上
------	---------

(5) 広報活動

学校説明会等来校者	3,300組
塾・予備校説明会	12回以上
ホームページ更新	700回以上